

## 2022年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2021年11月12日

上場会社名 株式会社ニチリョク  
 コード番号 7578 URL <https://www.nichiryoku.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役経営統括本部長  
 四半期報告書提出予定日 2021年11月12日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東  
 (氏名) 寺村 公陽  
 (氏名) 五嶋 美樹  
 TEL 03-6281-8470

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年3月期第2四半期の業績(2021年4月1日～2021年9月30日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第2四半期	1,408	16.0	74	—	12	—	0	—
2021年3月期第2四半期	1,213	△24.4	△68	—	△106	—	△87	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第2四半期	0.04	0.03
2021年3月期第2四半期	△15.16	—

(注)当社は、2021年4月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」を算定しております。また、2021年3月期第2四半期の「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年3月期第2四半期	9,299	4,006	43.0	298.23
2021年3月期	9,735	3,923	40.2	305.58

(参考)自己資本 2022年3月期第2四半期 3,995百万円 2021年3月期 3,917百万円

(注)当社は、2021年4月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり純資産」を算定しております。

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2022年3月期	—	0.00	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	—	—	2.00	2.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注)当社は、2021年4月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。2021年3月期の期末の配当金については、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。

### 3. 2022年3月期の業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,800	44.8	370	237.8	260	—	220	—	25.28

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期2Q	13,408,005 株	2021年3月期	12,830,005 株
② 期末自己株式数	2022年3月期2Q	9,555 株	2021年3月期	9,505 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期2Q	12,887,554 株	2021年3月期2Q	5,797,366 株

(注)当社は、2021年4月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、発行済株式数(普通株式)を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	6
第2四半期累計期間 .....	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の変異株による感染爆発に翻弄され、政府及び各自自治体による緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が概ねの期間交互に発出される形で終わりました。

一方、同時並行で国民のワクチン接種は進み、感染者数は2021年8月20日をピークに減少に転じ、第6波襲来の懸念はありながらも、先行き不透明な状況は徐々に解消されつつあります。

当社が属するメモリアル市場は、高齢者が増加傾向にあるにもかかわらず、お墓事業における屋外墓地については、埋葬の選択肢の多様化に伴い、高価格となる旧来の墓地墓石の購入層は年々減少しております。

この流れに対応すべく当社は、消費者ニーズに寄り添った様々なお墓の形態を兼ね備えた霊園を開発すると共に、供養の全てを網羅し、価格においてもご満足いただける堂内陵墓の販売拡大に取り組んでおります。

葬祭事業においては、超高齢化を背景に葬儀の簡素化が顕著となる中、インターネット媒体を中心とした同業者間の価格競争により、施行単価が下落するという厳しい環境下にあります。

それに加え、コロナ禍の影響による通夜式を自粛し告別式のみを執り行う密葬や直葬を選択するご葬家が増加傾向にあることから、葬儀専門のポータルサイトとの連携を通じ受注件数の増大に努めました。

この結果、当第2四半期累計期間の業績は、売上高14億8百万円(前年同四半期比16.0%増)、営業利益7千4百万円(前年同四半期は営業損失6千8百万円)、経常利益1千2百万円(前年同四半期は経常損失1億6百万円)、四半期純利益0百万円(前年同四半期は四半期純損失8千7百万円)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### ①お墓事業

##### a. 屋外墓地

屋外墓地につきましては、高齢者の増加により成約件数は増加傾向にあるものの、埋葬に対する価値観の変化や選択肢の多様化に伴い、高価格となる旧来の墓地墓石の購入層は年々減少しております。

それに対し、樹木葬や共有墓等の需要は急激に増加し、施工単価の下落がより顕著化している状況を踏まえ、募集販売を受託している既存霊園の増設や改造等、販売戦略の見直しを適宜行っており、コロナ禍による来園者数の減少は依然否めないものの、成約率は上昇傾向にあることから収益は改善しております。

売上高は、5億6千9百万円(前年同四半期比8.3%増)となりました。

##### b. 堂内陵墓

堂内陵墓につきましては、現在、第六号「赤坂一ツ木陵苑(東京都港区)」並びに第七号「大須陵苑(名古屋市中区)」の募集代行を行っております。

コロナ禍による外出自粛の影響や埋葬の選択肢の多様化等を踏まえ、広告戦略の抜本的な見直しや徹底した感染防止対策等に努めたものの、収益は小幅な改善に留まりました。

売上高は、1億3百万円(前年同四半期比0.4%増)となりました。

#### ②葬祭事業

葬祭事業につきましては、死亡者数が年々増加傾向にある中、春夏秋冬に発行する会報の配布やコロナ禍を踏まえ少人数に限定した終活セミナーの開催等、潜在顧客を受注に繋げる施策を継続的に行っております。

当社は、2021年6月、会員に対して葬儀等を割引価格で提供するだけでなく、シニアライフを応援する終活や葬儀後の諸手続きをサポートすることを目的に、有料会員サービスである「愛彩花倶楽部」を「さくら倶楽部」へ名称変更し特典内容を大幅に刷新すると共に、新たに無料会員サービスである「あおい倶楽部」を新設しました。

これは、有料・無料の会員を獲得することで、最終的に当社のメインサービスである葬儀や墓地墓石等の受注に繋げ、収益の増大を目的としております。

また、葬儀専門のポータルサイト等と連携した潜在顧客以外の受注拡大と併せて抜本的な経費の見直しに注力した結果、会葬者の減少は否めないものの受注件数は第2四半期累計期間過去最高を記録し、収益は大幅に改善しました。

売上高は、7億3千5百万円(前年同四半期比25.7%増)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## ①資産、負債、純資産の状況

## (資産)

当第2四半期会計期間末における流動資産は、前事業年度末に比べ、8億6千5百万円減少し、14億8千2百万円となりました。その主な要因は、現金及び預金9億円の減少等によるものであります。

当第2四半期会計期間末における固定資産は、前事業年度末に比べ、4億3千2百万円増加し、77億7千9百万円となりました。その主な要因は、差入保証金3億9千3百万円の増加等によるものであります。

この結果、総資産は、92億9千9百万円となり、前事業年度末に比べ4億3千6百万円減少いたしました。

## (負債)

当第2四半期会計期間末における流動負債は、前事業年度末に比べ、3千1百万円減少し、21億4千7百万円となりました。その主な要因は、1年内償還予定の社債1億円の増加、1年内返済予定の長期借入金7千4百万円及び預り金5千1百万円の減少等によるものであります。

当第2四半期会計期間末における固定負債は、前事業年度末に比べ、4億8千7百万円減少し、31億4千5百万円となりました。その主な要因は、長期借入金4億5千万円の減少等によるものであります。

この結果、負債合計は、52億9千3百万円となり、前事業年度末に比べ5億1千8百万円減少いたしました。

## (純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ、8千2百万円増加し、40億6百万円となりました。その主な要因は、資本金5千万円及び資本剰余金5千万円の増加等によるものであります。

この結果、自己資本比率は43.0%（前事業年度末は40.2%）となりました。

## ②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ8億2千9百万円減少し、2億4千9百万円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、1百万円（前年同四半期比98.6%減）となりました。これは主に、営業収支による収入5千万円及び利息の支払4千6百万円等によるものであります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、4億7千2百万円（前年同四半期比93.0%増）となりました。これは主に、差入保証金の純増による支出4億2千4百万円等によるものであります。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、3億5千6百万円（前年同四半期比7.6%減）となりました。これは主に、長期借入金の純減による支出5億2千4百万円等によるものであります。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、現時点、2021年5月14日の「2021年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2021年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,683,848	782,981
完成工事未収入金	20,336	23,784
売掛金	194,753	203,107
永代使用权	174,234	169,603
未成工事支出金	184,582	183,194
原材料及び貯蔵品	52,025	72,324
その他	38,868	47,902
貸倒引当金	△22	△52
流動資産合計	2,348,627	1,482,845
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	638,417	618,955
土地	2,031,662	2,031,662
その他(純額)	13,242	10,103
有形固定資産合計	2,683,323	2,660,721
無形固定資産	81,466	69,473
投資その他の資産		
長期貸付金	59,527	58,627
差入保証金	3,804,491	4,197,823
長期末収入金	361,053	356,532
霊園開発協力金	27,770	92,973
その他	361,054	374,318
貸倒引当金	△31,098	△30,550
投資その他の資産合計	4,582,799	5,049,724
固定資産合計	7,347,588	7,779,920
繰延資産	39,229	36,480
資産合計	9,735,445	9,299,246
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	72,630	54,937
短期借入金	649,146	649,146
1年内返済予定の長期借入金	1,005,083	931,079
1年内償還予定の社債	10,000	110,000
未払法人税等	16,257	17,808
賞与引当金	3,479	9,446
その他	422,665	375,055
流動負債合計	2,179,261	2,147,473
固定負債		
社債	5,000	—
長期借入金	3,160,530	2,709,970
退職給付引当金	252,141	226,220
役員退職慰労引当金	74,809	84,392
その他	140,285	125,081
固定負債合計	3,632,766	3,145,664
負債合計	5,812,027	5,293,138

(単位:千円)

	前事業年度 (2021年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2021年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,650,450	1,701,171
資本剰余金	1,301,690	1,352,411
利益剰余金	975,448	950,273
自己株式	△2,768	△2,778
株主資本合計	3,924,820	4,001,078
評価・換算差額等		
繰延ヘッジ損益	△7,085	△5,215
評価・換算差額等合計	△7,085	△5,215
新株予約権	5,682	10,244
純資産合計	3,923,417	4,006,107
負債純資産合計	9,735,445	9,299,246

(2) 四半期損益計算書  
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
売上高	1,213,559	1,408,097
売上原価	377,315	383,535
売上総利益	836,244	1,024,562
販売費及び一般管理費	905,156	950,192
営業利益又は営業損失(△)	△68,912	74,370
営業外収益		
受取利息	904	791
受取配当金	183	183
受取賃貸料	2,408	2,408
受取手数料	—	2,594
協賛金収入	2,874	4,881
その他	5,928	2,086
営業外収益合計	12,298	12,945
営業外費用		
支払利息	46,474	45,879
情報セキュリティ対策費	—	13,100
その他	3,377	15,919
営業外費用合計	49,851	74,899
経常利益又は経常損失(△)	△106,465	12,415
特別利益		
固定資産売却益	249	—
特別利益合計	249	—
特別損失		
固定資産除却損	163	2,212
特別損失合計	163	2,212
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△106,379	10,203
法人税、住民税及び事業税	4,866	4,763
法人税等調整額	△23,331	4,973
法人税等合計	△18,465	9,736
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△87,914	466

## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
営業収入	1,218,871	1,387,902
原材料又は商品の仕入れによる支出	△347,208	△363,781
人件費の支出	△514,891	△475,935
その他の営業支出	△409,840	△497,721
小計	△53,069	50,463
利息及び配当金の受取額	218	193
利息の支払額	△46,905	△46,272
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	3,139	△5,701
営業活動によるキャッシュ・フロー	△96,616	△1,317
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△89,003	△18,000
定期預金の払戻による収入	141,000	82,999
有形固定資産の取得による支出	△1,788	△16,825
有形固定資産の売却による収入	250	—
無形固定資産の取得による支出	—	△2,319
出資金の払込による支出	—	△10
貸付金の回収による収入	3,471	900
霊園開発協力金の支出	—	△81,382
霊園開発協力金の回収	2,910	3,880
差入保証金の差入による支出	△380,742	△503,882
差入保証金の回収による収入	99,798	79,806
その他	△20,694	△17,711
投資活動によるキャッシュ・フロー	△244,796	△472,544
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	303,238	1,000,000
短期借入金の返済による支出	△128,987	△1,000,000
長期借入れによる収入	497,984	—
長期借入金の返済による支出	△909,099	△524,564
社債の発行による収入	—	150,000
社債の償還による支出	△114,750	△55,000
株式の発行による収入	—	95,616
自己株式の取得による支出	—	△9
新株予約権の発行による収入	—	4,562
配当金の支払額	△32,376	△25,478
その他	△1,132	△1,132
財務活動によるキャッシュ・フロー	△385,120	△356,005
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△726,534	△829,866
現金及び現金同等物の期首残高	980,418	1,078,895
現金及び現金同等物の四半期末残高	253,884	249,028

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。